



平成 30 年 6 月 7 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 F F R I
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 鵜 飼 裕 司
(コード番号：3692 東証マザーズ)
問 合 せ 先 取 締 役 最 高 財 務 責 任 者 田 中 重 樹
(TEL. 03-6277-1518)

株式会社TKCによる次世代型エンドポイントセキュリティ「FFRI yarai」 提供に関するお知らせ

株式会社FFRI（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：鵜飼裕司、東証マザーズ上場：コード番号3692、以下「当社」）は、全国約9,500の会計事務所などに情報サービスを提供する株式会社TKC（本社：栃木県宇都宮市、代表取締役社長：角一幸、以下「TKC」）を通じて、次世代型エンドポイントセキュリティ「FFRI yarai」を提供することとなりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 会計事務所でもニーズが高まるサイバー攻撃対策

日々サイバー攻撃の高度化・巧妙化が進み、一般的なパターンマッチング型のアンチウイルスソフトでは対抗することが難しくなっています。中でも2017年に国内外で猛威を振るった「WannaCry」をはじめとしたランサムウェア攻撃や、昨今メディアでも報道されている実行ファイルを使用しないファイルレスマルウェア攻撃等は、企業の規模や業種を問わず、その被害報告が相次ぐことから、顧問先企業の会計データを取り扱う会計事務所においても高度なサイバー攻撃に対抗するソリューションのニーズが高まっている状況がうかがえます。

このような状況においてTKCでは、当社が提供する「FFRI yarai」※1を採用し、一般的なウイルス対策ソフトでは検知することができない新種のウイルスを挙動（ふるまい）から検知するサービスなどを、TKC会員会計事務所向けに提供していく計画です。

※1 当社がサイバーセキュリティ領域における独自の研究開発ノウハウを活かして提供している「FFRI yarai」は、パターンマッチング技術※2ではなく、独自のプログレッシブ・ヒューリスティック技術※3により、未知のサイバー攻撃に対抗する次世代エンドポイントセキュリティです。未知のマルウェアや脆弱性攻撃の防御実績と、厳格なセキュリティ基準を求める官公庁や重要インフラ企業等での導入実績を豊富に有しています。

※2 検査対象のプログラムと、パターンファイル（マルウェアのデータベース）をマッチングして検知・防御する仕組み。パターンファイルを保持していなければ検知することができないため、新種や改造されたマルウェアは検知・防御することができません。

※3 パターンファイルに全く依存せず、マルウェアの構造や振る舞いを見て、マルウェアに特徴的な「悪意」を分析することにより検知・防御する技術。パターンマッチングでは防御が難しい新種や改造されたマルウェアであっても、マルウェアに共通する「悪意」を検知し、防御することが可能。

2. 提供開始日：2018年7月（予定）

3. 今後の見通し

本件は平成30年5月15日発表の平成31年3月期連結業績予想に織り込んでおりますが、今後、業績に重大な影響を与えることが明らかになった場合には、速やかにお知らせいたします。

以 上

(参考) 当期業績予想及び前期実績

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
当期業績予想 (平成31年3月期)	1,828百万円	316百万円	316百万円	204百万円
前期実績 (平成30年3月期)	1,673百万円	309百万円	309百万円	222百万円